ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

ボーリングNO.									

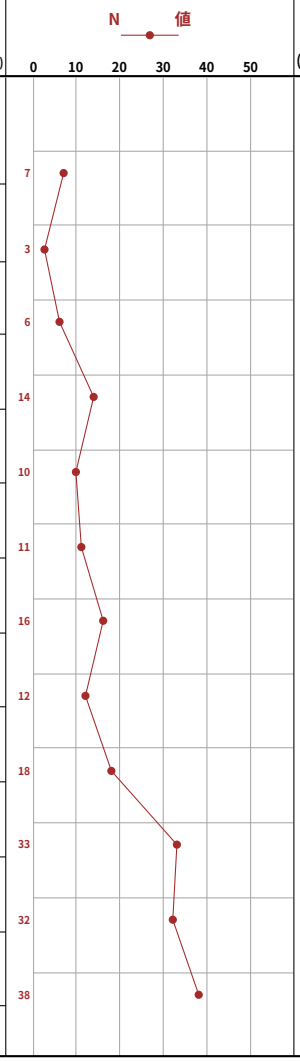
シートNO.

ボーリング名	BP.1	調査位置						北　緯	36 ° 27 ' 56.3000 "
発注機関	栃木県　安足土木事務所			調査期間	2010-07-19 ～ 2010-07-20			東　経	139 ° 30 ' 35.8000 "
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	228.16 m	角度	180° 上 90° 下 0° 0.00 °	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0° 10.00 °	使用機種	試錐機 / ハンマー落下用具
総掘進長	12.00 m								エンジン / ポンプ

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	地層岩体区分	孔内水位 (m) / 測定月日
	227.26	0.90	0.90		表土 (SF)	黒		中位	有機質火山灰土による。上部15cm間、木根を多量に混入する。土は含水やや低く非常に軟らかい。GL-0.5m以深、φ5～20mm程の角礫(岩片)を認める。		
1					礫混り粘土 (CH-G)	暗茶褐		軟らかい	GL-3.80mまでローム質強く、含水・粘性共に中位で軟らかい。 礫はφ5～10mmの角礫(岩片)を主体に最大φ50mm程を混入し、GL-2.70m付近より風化礫がやや目立つ。		
2								中位	GL-3.80m以深、砂分の含有が認められる。		
3						灰褐					
4						暗茶褐		硬い	礫分の混入頻度には深さ方向に不均質さが感じられる。		
5									GL-7.0～7.8m間及びGL-8.95～9.7m間、礫分の混入度合いが高く、粘土質砂礫状を呈す。		07/20 7.00
6											
7								非常に硬い			
8								硬い			
9								非常に硬い			
	218.36	8.90	9.80								
10					風化岩 (砂岩) (WR)	暗褐灰			土砂用刃先(メタルクラウンビット)で容易に掘進可能。 風化・変質が顕著で岩性組織は殆ど残さず、コアは粘土混り砂礫状で採取される。 GL-12m以深、幾分か固結度合いの上昇を感じる。		
11											
12											
	215.71	2.65	12.45								

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0-10	10-20	20-30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
1.15	2	3	2	7／30	7
1.45					
2.15	1	1	1／13	3／33	3
2.48					
3.15	2	1	3	6／30	6
3.45					
4.15	5	5	4	14／30	14
4.45					
5.15	2	3	5	10／30	10
5.45					
6.15	4	4	3	11／30	11
6.45					
7.15	5	6	5	16／30	16
7.45					
8.15	4	4	4	12／30	12
8.45					
9.15	7	6	5	18／30	18
9.45					
10.15	10	11	12	33／30	33
10.45					
11.15	10	11	11	32／30	32
11.45					
12.15	12	13	13	38／30	38
12.45					



原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験	掘進月日
						07/19
						07/20